

# 原発に頼らない社会を！ PartⅦ 小水力発電に注目



水力発電と聞くと、通常はダムを造って発電するシステムを想像されるでしょう。それでは、小水力発電とはどんなものなのでしょうか？

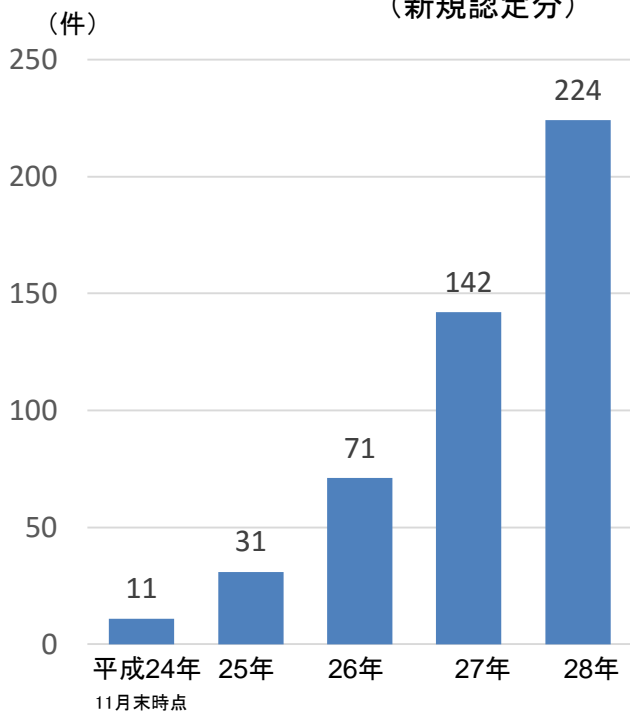
この概念は世界的には統一されておりませんが、我が国では従来から「発電量・1万KW以下」を小水力としてきました。しかし、今後の地域密着型エネルギーを考えた場合は、1千KW以下を扱った方がベターです。おおよそ500世帯前後の市民生活に電気を供給できる、そんなイメージでしょうか…。

小水力は、わざわざ川の水を貯める必要はありません。ごく自然に流れる河川はじめ、農業用水、工業用水、上下水道など、現在何気なく捨てられているエネルギーを利用しようとするもの。なお小水力のメリットとしては、年間を通じて安定した発電が可能で、設置コストからしても太陽光発電の5～8倍の電力量を確保できます。一方、水利権の問題など

の利害関係や、法的な規制、さらに申請手続きの煩雑さ等が難点です。

未開発かつ潜在的なエネルギーとして、300万KW以上発電可能であると注目されており、仮に全国の市町村にある水道管の高低差で発電しただけでも、優に3万世帯分の電力になる試算まであります。今後、使えるものは全て使うという姿勢で、展開していく象徴的な実例となり得ましょう。

1,000KW未満の水力発電設備導入件数  
(新規認定分)



出典：固定価格買取制度情報公表用ウェブサイトに基づき作成



## 「水の日」の提案

六月の歳時記には水無月、入梅、田植え、川明など暮しのなかの水にまつわる事柄が多くみられる。

水戸議員は「等身大のニッポン」緒第一章日本を見つめる第四項次の時代に何を伝えていこうかの中で、国民が日本に何を期待しているか、逆に国民は日本のどこに誇りを持っているのでしょうか。(中略) 我が国の特徴とも言える大自然の中に存在する大いなる緑と水をこれからどう活かしていきたいかが、これが日本の進路を決定するファクターになる。と主張している。

「国民の祝日に関する法律」によれば、祝日は年間十六日あるが六月だけ祝日がない。祖先を敬い、老人を敬愛し青年を祝い励ます祝日があり、五月五日こどもの日には母に感謝する。ちなみに父親の文語はない。みどりの日、海の日、山の日に加えて、日本の進路を決定するファクターの一つに「水」に着目し、祝日のない六月に「水の日」を制定することは意義があると思えますが、皆さんはどのように思いますか。

## 水戸応援団

Mチーム 益田正廣

## 今月の水戸まさし応援団

- ◆HP <https://www.kickoff310.com/>
- ◆メール [kickoff310@yahoo.co.jp](mailto:kickoff310@yahoo.co.jp)
- ◆Face Book 「水戸将史」で検索
- ◆Twitter @mito\_kickoff
- ◆メルマガ 登録はHPから

- ◆国会事務所  
〒100-8982  
東京都千代田区永田町2-1-2  
衆議院第二議員会館601号室  
TEL:03-3508-7027 FAX:03-3508-3827

- ◆地元事務所  
〒245-0008  
横浜市泉区弥生台26-6  
TEL:045-814-3001  
FAX:045-814-3007